

## 安全上のご注意

表示を無視して、誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のように区分しています。

**△警告** 「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。

**△注意** 「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の表示で区分しています。

**○** してはいけない  
「禁止」内容です。

**!** 必ずしなければならない  
「強制」内容です。

据付工事の完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、この工事説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

**△警告**

- 据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者に依頼し、工事には必ず当社付属品及び指定の部品を使用して確実に行う。

据付工事は、この工事説明書に従って確実に行う。  
(室内機・室外機の落下や水漏れ、火災、感電の原因)

- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
(强度不足や取り付けが不完全な場合は、室内機・室外機の落下により、ケガの原因)

- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、及び工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

(電源回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因)

- 漏電しや断器を取り付ける。  
(漏電しや断器が取り付けられていないと、感電、火災の原因)

- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。  
(ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください)

- 据付作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
工事終了後、冷媒が漏れないことを確認する。

(冷媒が漏れ、滞留し、火気に触ると、まれに引火し、有毒ガスが発生する原因)

- 室内外ユニット間配線は、途中接続やより線の使用をせず、所定のケーブルを使用し、端子板へ確実に接続する。  
(接続や固定が不完全な場合は、故障や発熱、火災の原因)

- 室内外ユニット間配線は、端子板カバー(コードクランプ・コード押さえを含む)が浮きあがらないように整形し、カバーを確実に取り付ける。  
(カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因)

- 配管、フレアナット、工具はR32またはR410A専用のものを使用する。  
(R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。  
(フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)

- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。  
(冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)

- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。  
(圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)

- 室外機は、ベランダの手すり近くに設置しない。  
(お子様が室外機の上に登り、手すりを乗り越え、落下事故につながるおそれ)

- 電源コードの加工、途中接続、タコ足配線、ステープル等での固定はしない。  
(接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、火災、感電の原因)

- 指定冷媒(R32)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない。  
(機器の故障や破裂、ケガ等の原因)

- 冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気等を混入させない。  
(空気等が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破壊、ケガ等の原因)

- アース(接地)を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。  
(アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因)

**△注意**

- ドレン工事は、工事説明書に従って確実に排水するよう配管する。  
(不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因)

- 新築やリフォームなどの内装工事や床面のワックス掛け時は、エアコンの運転を停止する。

ワックス掛け等の作業後はエアコンの運転前に充分な換気を行う。  
(揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因)

- 室外機の吸入口やアルミフィンにさわらない。  
(ケガの原因)

- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しない。  
(万一、可燃性ガスが漏れて室内機・室外機の周囲に溜ると、発火の原因)

- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には設置しない。  
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触ると、故障や発煙・発火の原因。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。)

## 据付工事後の確認(必ず確認してください)

この工事説明書に従って工事しなかったことが原因による故障や事故などは、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

 電源電圧は規定どおりか。

コンセントに差し込む前に、電圧をテスターで確認してください。電圧が違うと故障の原因になります。

 電源コードは以下のような誤った扱いをしていないか。

切断加工、延長コードの使用、タコ足配線、ステープル等での固定、室内機本体での圧迫等

 ユニット間配線の挿入、固定は確実か。 ユニット間配線は、途中接続をしていないか。  
φ2.0mmVVFケーブル(3心)を使用しているか。 アース線の接続は確実か。 漏電しや断器は設置されているか。 室内機、室外機は確実に据え付けられているか。

エアコンの重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しない所に据え付けてください。

 ドレン排水は確実か。 配管接続は確実か。

配管接続部のガス漏れ検査を実施してください。

 2方弁、3方弁は開いているか。 試運転を15分以上行ったか。 フィルター掃除は、正常に動作したか。

確認日	工事会社名	確認者
年 月 日		

据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者にご依頼ください。また、この工事説明書は取扱説明書と共に大切に保管してください。

家庭用エアコンにはGWP(地球温暖化係数)が675の  
フロン類(R32)が封入されています。地球温暖化防止のため、  
移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。

## 付属品

## 室内機用 (室内機に同梱)

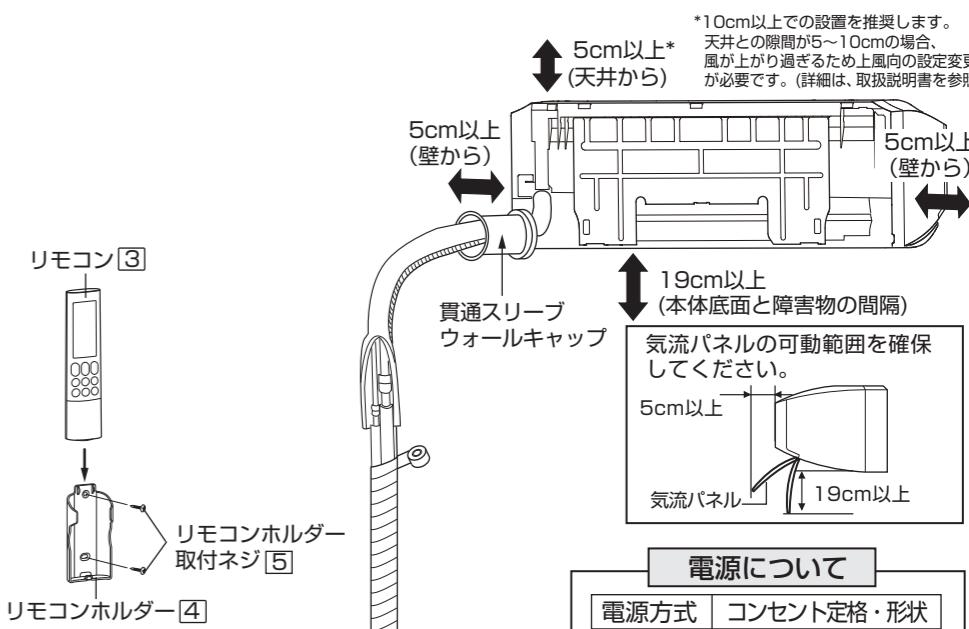
① 据付板	② 据付板 取付ネジ (長さ25mm)	③ リモコン	④ リモコンホルダー	⑤ リモコンホルダー 取付ネジ(黒色)
1枚	7本	1個	1個	2本
⑥ 乾電池(単4形)	⑦ 端子板カバー	⑧ 端子板カバー 取付ネジ(長さ12mm)	⑨ 不織布	⑩ ユニット掃除ブラシ
2本	1個	1本	1個	1個
				お手入れに使います。 (据付工事には使いません) 必ずお客様にお渡しください。

## 室外機用 (室外機に同梱)

⑪ ドレン工事用付属品
ドレンうけ
1個

\*10cm以上の設置を推奨します。  
天井との隙間が5~10cmの場合、風が上がり過ぎるため上風向の設定変更が必要です。(詳細は、取扱説明書を参照)

## 据付図



## 電源について

電源方式	コンセント定格・形状
単相100V	125V 15A (II)
	125V 20A (I)
単相200V	250V 15A (◎)
	250V 20A (◎)

・電源は必ず専用回路を使用してください。

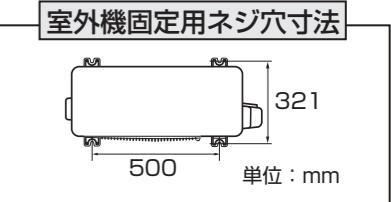
## 電源コードの長さ

電源方式	左出し	右出し
単相 100V	1.1m	1.8m
	0.75m	1.4m
単相 200V	0.75m	1.4m

## 冷媒配管について

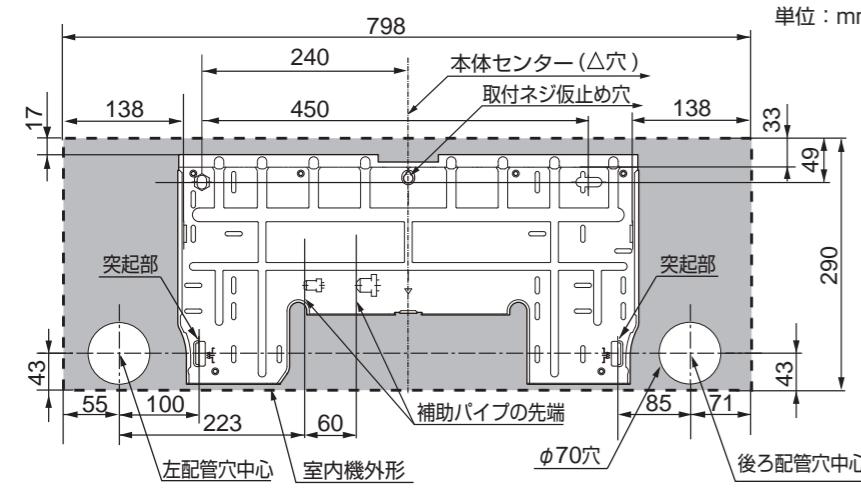
最大許容値	配管長さ	配管高低差
15m	10m	
・冷媒追加充てんの必要はありません。		
・室外機が室内機より上にあるときは、室内引き込み口にトラップを設けてください。(雨水の浸入を防ぐため)		

・設置スペースは、据付場所に余裕があれば、効率の良い運転のためにできるだけ広く取ってください。  
・吹出口からの熱風や運転音が、隣家の迷惑にならないような場所をお選びください。  
・積雪等で吸込口や吹出口がふさがれないところ。



# 1 据付板の取り付け・配管穴あけ

## 室内機の取り付け寸法図

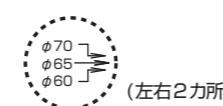


下記寸法以上の穴をあけてください。

貫通穴径	配管径
φ65mm	φ6.35mm(1/4") φ9.52mm(3/8")
φ70mm	φ6.35mm(1/4") φ12.7mm(1/2")

貫通穴中心を決める際は

- ・据付板の突起部から85mmの位置が中心です。
- ・穴径により上下方向の中心位置が異なりますので、据付板の刻印（下記参照）を活用してください。



## 据付板の取り付け

据付板は水準器をあてて、水平に取り付けてください。

### 壁に直接取り付ける場合

- ・取付ネジを7本以上用いて固定してください。  
(7本同梱しています。必要に応じて追加してください。)  
右図の据付板固定位置にネジ止めすることをおすすめします。
- ・板壁内の構造物(間柱、棟等)を利用し取り付けてください。  
間柱等をさがすのが困難な場合は、ボードアンカー(市販品)等をご使用ください。
- ・壁が石膏ボードの場合、壁厚に応じた樹脂製のカサ式ボードアンカーをご使用ください。ねじ込み式は使用しないでください。  
(保持強度が極端に落ちる場合があります。)
- ・取り付け後、手で引っ張って強度を確かめてください。
- ・住宅公園等、埋込みボルトがある場合は、公園用取付穴を利用して取り付けてください。

### 回り縁と鴨居につける場合

- ・取付アングル(市販品)を使用してください。

## 配管穴あけ

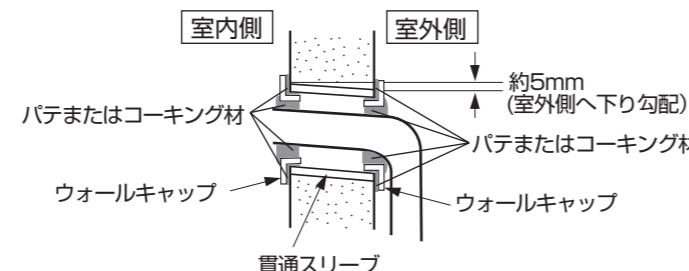
### 1. 壁に穴を室外側に下り勾配にあける。(ドレン排水のため)

### 2. 貫通スリーブ、ウォールキャップを取り付ける。

- ・接続ケーブルや配管の保護、小動物の侵入防止、結露による水漏れ防止のために、必ず使用してください。
- ・メタルラス、ワイヤラス等、金属を使っている壁は、必ず使うように電気設備技術基準で定められています。

### 3. すき間にパテまたはコーキング材でシールする。

- ・化粧カバー仕上げの場合も必要です。
- ・シールが不完全な場合、雨水の浸入による壁内部の腐食や外気の流入による結露の原因となります。



# 2 据え付けの準備

## カバーの取りはずし

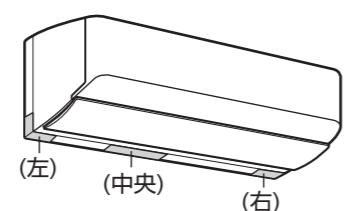
室内機を持ち上げる時に下側のカバーに手をかけると容易にはずれ危険ですので、取りはずして工事してください。また、取りはずすと工事が容易に行えます。

### (左)(右)

側面の小さな穴にマイナスドライバー等を差し込み、ツメをはずしてから、下側をはずす。

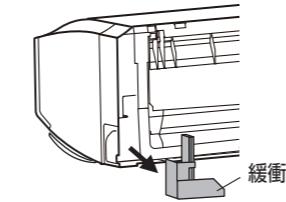
### (中央)

後側を下に引っぱり、取りはずす。



## 緩衝材の取りはずし

室内機背面の緩衝材(段ボール)は輸送用のものです。据付工事の前に取りはずしてください。



# 3 室内機のユニット間配線

### 1. ユニット間配線を加工する。

ユニット間配線は、φ2.0 mm VVFケーブル(3心)を使用してください。

### 2. オープンパネルを開ける。

### 3. 固定ネジを取りはずし、コードクランプをはずす。

### 4. ユニット間配線の接続をする。

- ・ユニット間配線の芯線を、端子板の奥まで確実に挿入してください。  
(のぞき穴から芯線が見えていることを確認してください。)
- ・端子番号に注意してください。誤配線すると内部の制御回路が破損したりします。

### 5. コードクランプと固定ネジで、ユニット間配線を固定する。

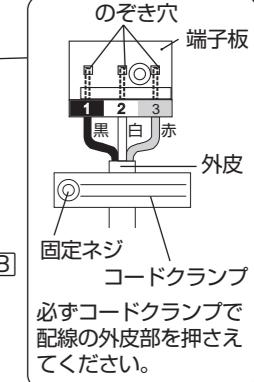
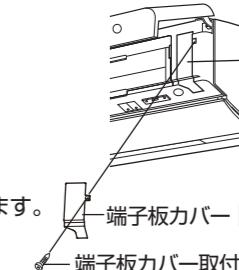
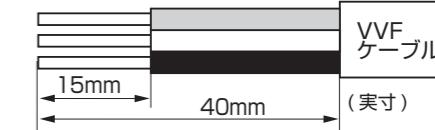
- ・付属の端子板カバー⑦を取付ネジ⑧(12mm)で固定する。

付属の据付板用取付けネジ(25mm)と間違えないでください。ネジの長さが異なります。

### 7. オープンパネルを閉める。

#### 警告

- ・より線及びφ1.6 mm VVFケーブルは、絶対に使用しないでください。接触不良の原因となります。
- ・VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。  
中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があるので絶対に行わないでください。

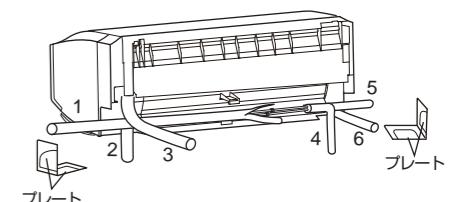


# 4 配管の引き出し・室内機の取り付け

## 配管の引き出し

### 1,2,4,5 の方向のときは、カバーのプレートを切り取ってください。

- ・切り取り後は、本体内部の配線(電源コード、ユニット間配線)、ドレンホース、補助パイプを傷つけないよう、鋭い切断面は処理してください。

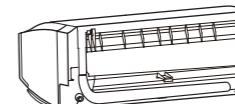


## 後・右・下配管の場合

### 1. ドレンホース、補助パイプ、ユニット間配線を配管穴に通す。 ドレンホースはトラップのないようにしてください。

## 左配管の場合

### 1. ドレンホースとドレンキャップを付け替える。(右図)



### 2. 配管を接続する。(⑦ 配管接続 を参照)

接続後、石けん水で冷媒漏れを確認してください。

### 3. 配管とユニット間配線をビニールテープで止め、ドレンキャップ ドレンホース付属の不織布⑨で巻く。

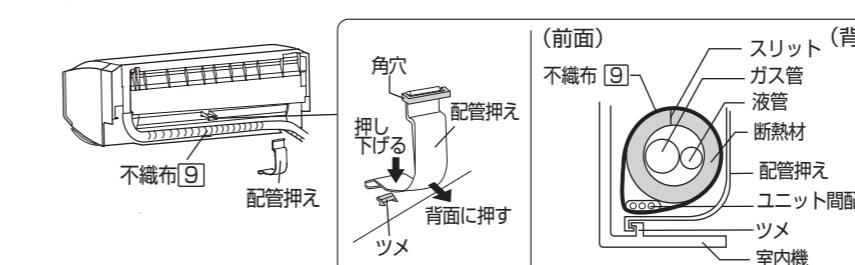
- ・断熱材のスリットは上向きにして、すき間のないように密着させてください。  
配管が断熱材で覆われていないと水漏れの原因となります。
- ・不織布は必ず断熱材のスリット部を覆うように巻いてください。  
(不織布は半分以上重ねながら、巻いてください)



### 4. 本体背面に配管類を収納し、配管押さえで固定する。

- ① 配管押さえの上部を室内機の角穴に入れる

- ② 配管押さえ下部を押し下げ、背面に押して室内機のツメにひっかける。



### 5. ドレンホースと配管類をまとめて配管穴に通す。

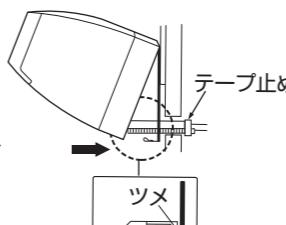
- ・ドレンホースはトラップのないようにしてください。

## 取り付け

### 1. 本体上部を据付板に引っ掛ける。

### 2. 本体下部を押し込んで固定する。

- 固定後、本体下部を手前に引っ張り、確実に本体が固定されているか確認してください。



## 注意

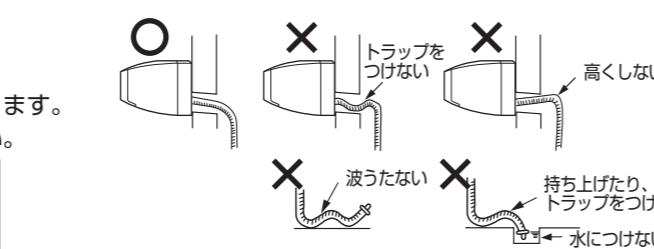
- 電源コードが余った場合、エアコン背面のスペースのある所にゆったりと収納してください。
- ・小さく折りたたんだり狭い所へ押し込まないでください。  
また、本体と据付板(とくに本体裏面のツメと据付板の受け部の間)にはさまないよう注意してください。  
電源コードが破損し、発熱・火災の原因になります。
- ・電源コードを室内機の上面にのせないでください。

## 5 室内機のドレン工事

ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように、必ず下り勾配をつけてください。(2°以上)

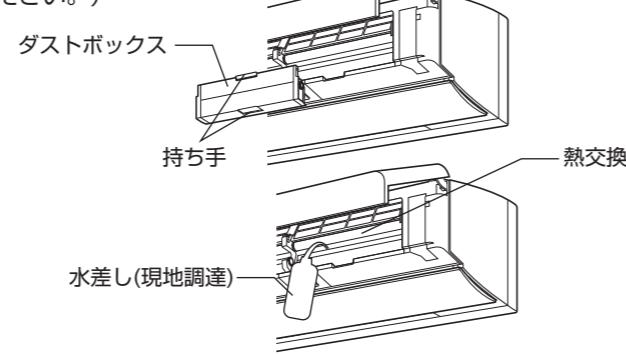
- ・ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用してください。
- ・ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先が水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因となります。
- ・延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。

ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで強い風をうけた時や換気扇などを使用した場合、「ボコボコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。



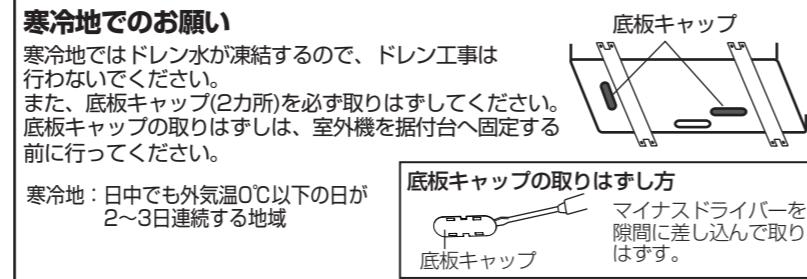
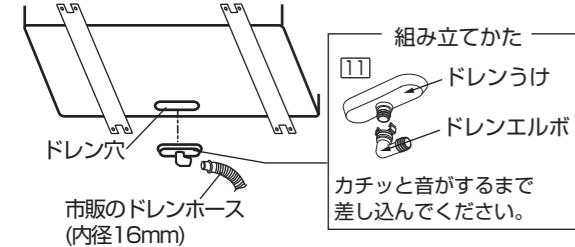
ドレン排水の確認（ドレン工事終了後、ドレン排水の確認をしてください。）

1. オープンパネルをはずす。
2. ダストボックスをはずす。  
持ち手をつかみ、手前に引き出す。
3. 水を熱交換器につたわらせて、ゆっくり注入する。  
水の勢いが強いと、室内機内部で水が跳ね、水漏れ・故障の原因になります。  
※注入するときは水差し(現地調達)などを使用してください。
4. ドレンホースから水が流れていることを確認する。
5. ダストボックスを元どおり取り付ける。
6. オープンパネルを取り付ける。



## 6 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により室外機ドレン穴から水が流れ出ます。排水処理をする場合はドレン工事を行ってください。



## 7 配管接続

重要！

- ・接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
- ・配管内への異物（油分、水分等）混入に十分ご注意ください。
- ・通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。
- ・冷媒漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油の塗布をおすすめします。フレア外面やフレアナットネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。オーバートルクによるフレアナットの割れやネジ破損の原因となります。

1. フレアナットは、最初の3~4回を手で締め付ける。
2. トルクレンチを使用し、指定の締付トルク値公差内でしっかりと締め付ける。  
トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。  
(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形・破損の原因)

### フレアナット締付トルク

	2面幅 ユニオン ナット	適合トルクレンチ
細管側 Φ6.35mm(1/4")	12mm	17mm
太管側 Φ9.52mm(3/8")	17mm	22mm



### 《既設配管再利用時のご注意》

- ・配管内厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
- ・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。(右記「配管のフレア加工」参照)
- ・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができる場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

### 配管のフレア加工

1. パイプカッターで配管を切断する。  
切断面は直角にしてください。
2. バリ取りをする。  
切紛を管内に入れないようにしてください。
3. フレアナットを挿入する。  
フレアナットは必ずエアコン本体に使用しているものを使ってください。
4. フレア加工をする。  
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。  
出し代(A): 0~0.5mm (R32またはR410A用フレア工具)
5. 確認する。  
真円で均一にフレア加工されていること。  
フレア内部外部共にキズがないこと。  
フレアナット挿入忘れはないか。

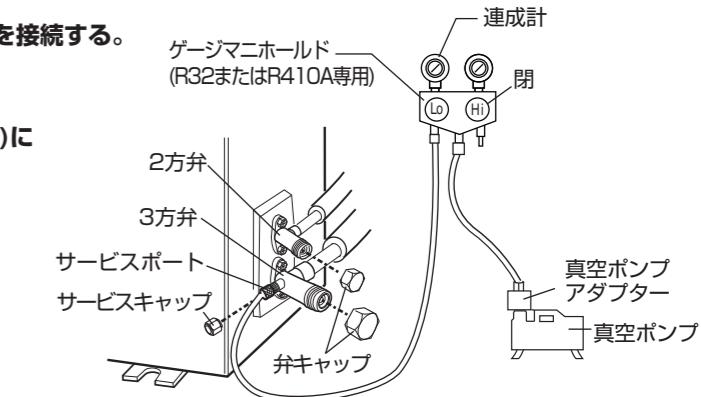
フレア加工は、正しく確実に行ってください。  
不備があると、冷媒が漏れる原因になります。

## 8 エアページ・冷媒漏れ確認

### エアページ

地球環境保護の観点から、エアページは真空ポンプ方式でお願いします。

1. 太管側(3方弁)のサービスキャップをはずす。
2. 3方弁のサービスポートにゲージマニホールドのチャージホースを接続する。  
金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。
3. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にする。
4. 真空引きを10~15分間行い、連成計が -0.1 MPa(-76cmHg)になっていることを確認する。
5. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にする。
6. 真空ポンプを停止する。  
1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。(接続部の漏れ確認のため)
7. 細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップをはずす。
8. 2方弁の弁棒を六角レンチ(4mm)を使って、反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認をする。
9. サービスポートからゲージマニホールドをはずす。
10. 2方弁を全閉にする。  
(当たりがあるところまで回してください。)
11. 3方弁を全閉にする。  
(当たりがあるところまで回してください。)
12. 2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付ける。  
トルクレンチを用いて、指定の締付トルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。

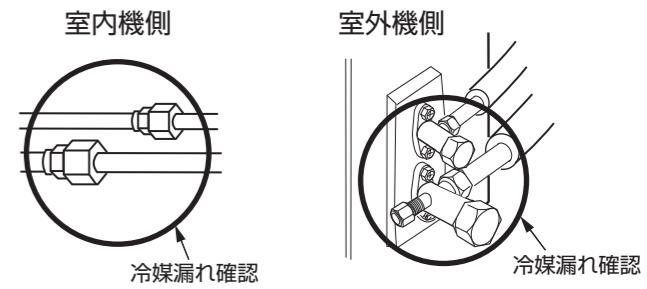


### 弁キャップ締付トルク

	キャップの2面幅	適合トルクレンチ
細管側 Φ6.35mm(1/4")	19 mm	24±3 N·m
太管側 Φ9.52mm(3/8")	19 mm	24±3 N·m
Φ12.7mm(1/2")	22 mm	31±3 N·m

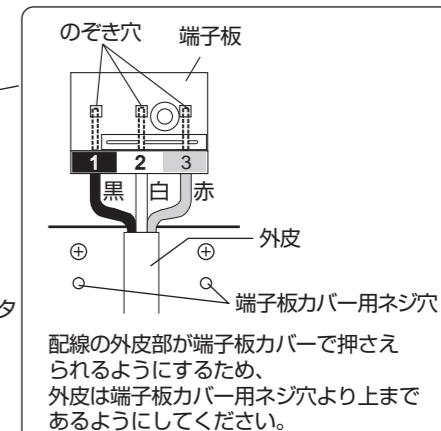
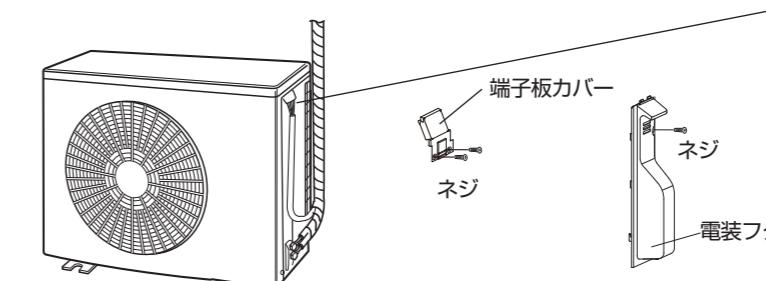
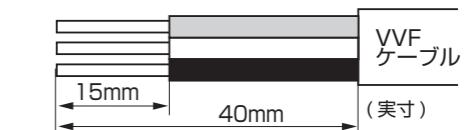
### サービスキャップ締付トルク

	キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1 N·m	



## 9 室外機のユニット間配線

1. ユニット間配線を加工する。
2. 電装フタと端子板カバーをはずす。
3. ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する。  
のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。  
配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。
4. ユニット間配線の外皮を端子板カバーと固定ネジ(2本)で固定する。
5. ユニット間配線が確実に固定されているか確認する。
6. 電装フタを取り付ける。



### 警告

VVFケーブルは中継器等を使って中継接続しないでください。  
中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があります。

## 10 アース工事・漏電しゃ断器

アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。

### アース工事

必ずアース工事を行ってください。

(行ってないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感じる場合があります。)

・アース工事は、電気工事士の資格がある方が行ってください。

・接地抵抗は100Ω以下にしてください。

(漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下にしてください。)

・アース棒およびアース線は市販品を使用してください。

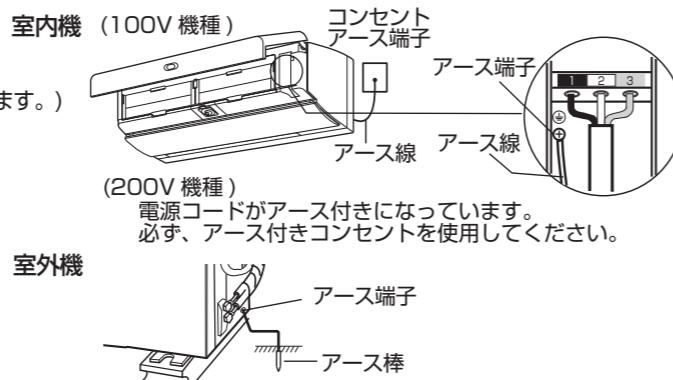
・室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。

・製品に取り付けているアース端子以外のネジは絶対に使用しないでください。(配管の損傷により、冷媒が漏れる原因となります。)

### 漏電しゃ断器について

・万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。

・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作高感度高速タイプを使用してください。



## 11 リモコンの設定(部屋形状・据付位置) / センサーの向き設定

必要に応じ、リモコンで設定を行ってください。お部屋に合った送風調節をします。  
(詳しくは取扱説明書を参照)

### 部屋形状の設定

(初期設定は「正方形」)

部屋形状に合わせて風量を調節します。

部屋形状が以下のときに、設定してください。

タテ長	縦の長さが、横の長さの1.5倍以上のとき
ヨコ長	横の長さが、縦の長さの1.5倍以上のとき

1. 「メニュー」ボタンを押して、「部屋形状」を選ぶ。

2. □ボタンを押して、部屋形状を選ぶ。



3. 本体送受信部に向けて、「決定」ボタンを押す。

### 据付位置の設定

(初期設定は「中央」)

風をお部屋の中心に送るよう、送風範囲を調節します。  
据付位置が以下のときに、設定してください。

左	エアコン左端と左壁との距離が50cm以内のとき
右	エアコン右端と右壁との距離が50cm以内のとき

1. 「メニュー」ボタンを押して、「据付位置」を選ぶ。

2. □ボタンを押して、据付位置を選ぶ。

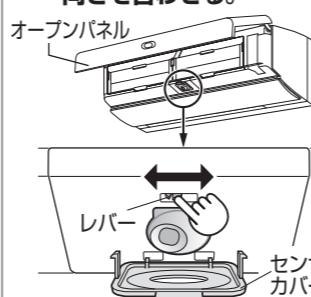


3. 本体送受信部に向けて、「決定」ボタンを押す。

### センサーの向き設定

センサーがお部屋の中央に向くように合わせてください。  
(詳しくは取扱説明書を参照)

1. オープンパネルを開く。
2. センサーパーツを開く。
3. レバーを指で動かして向きを合わせる。



## 12 試運転(必ず行ってください)

試運転は、15分以上行い、風が冷えている(暖まっている)ことを確認してください。

1. 本体の「応急運転」ボタンを押して、運転を開始する。

2. (冷房の試運転) 運転中に、本体の「応急運転」ボタンを5秒以上押し続ける。

・ピット音がし、運転ランプが点滅して強制冷房運転になります。

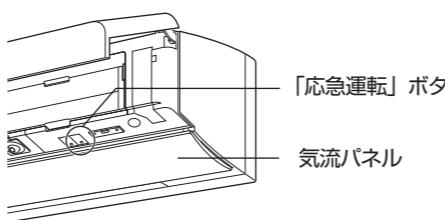
3. (暖房の試運転) 強制冷房運転中にリモコンの「暖房」ボタンを押す。

4. 試運転を停止するときは本体の「応急運転」ボタンをもう一度押す。

試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください

・タイマーランプ(橙)が点滅：ユニット間配線が正しいかどうか。

・冷風(温風)が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。



必ず気流パネルを取り付けて試運転をしてください。  
気流パネルを取り付けてないと正しい確認ができません。

## 13 フィルター掃除の動作確認

フィルター掃除の動作確認の前に、輸送用緩衝材やテープが室内機に貼り付いていないことを確認してください。

1. 停止中に、[クリーン]を押して「フィルター掃除」を選ぶ。

本体のプラズマクラスターランプ(水色)が点灯し、フィルター掃除が始まります。

2. 約5分後、エラー表示が出ないことを確認し、リモコンの「停止」ボタンを押す。

### エラー表示が出た場合

ダストボックスとエアーフィルターが正しく取り付けられているか確認してください。



## 必要なときに

### 同じ部屋に当社のエアコンを2台設置するとき

1つのリモコンで2台が動作しないように、信号設定を切り換えることができます。  
(詳しくは取扱説明書を参照)



5. コネクターカバーを取りはずす。  
マイナスドライバー等を差込みます。

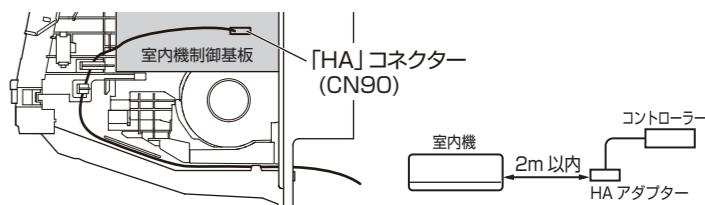
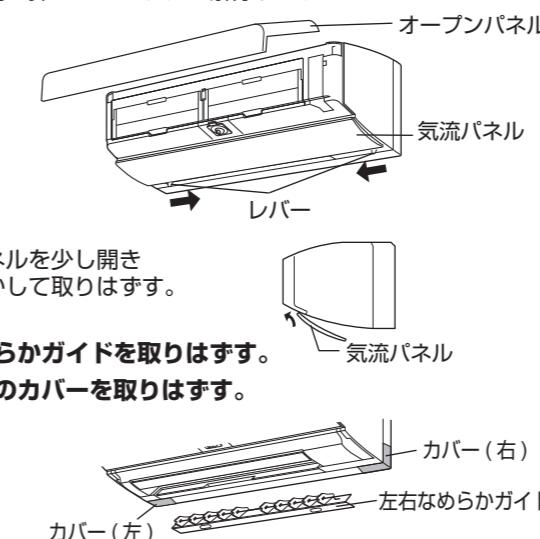


6. コネクターを抜く。  
突起部を押しながら抜く。



7. ネジ(3本)をはずし、前面パネルを取りはずす。

- ① 前面パネル上部のツメ(3カ所)をはずす。
- ② 左右の下側裏のツメを押し上げてはずし、前面パネルを取りはずす。



## ポンプダウン

移設など、エアコンを取りはずす時は、地球環境保護のため、冷媒の回収(ポンプダウン)を必ず行ってください。

1. 3方弁のサービスポートに圧力計(ゲージマニホールド)を取り付ける。

2. エアコンを強制冷房運転させる。(5~10分間程度)

強制冷房運転は、(12 試運転) を参照してください。  
暖房運転ではポンプダウンはできません。

3. 2方弁を全閉にする。

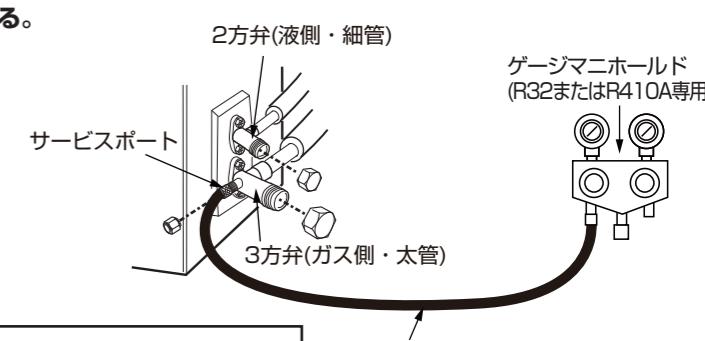
4. 圧力計がほぼ0MPa(0kgf/cm<sup>2</sup>)になるのを確認後、すみやかに、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させる。  
長時間、運転し続けると故障の原因になります。

5. 圧力計(ゲージマニホールド)を取りはずし、接続配管をはずす。

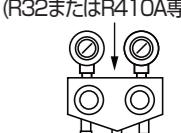
### 警告

下記の注意事項を守らないと、コンプレッサーが破裂し周囲に部品が飛び散り、工事作業者自身が重篤なケガをする恐れがあります。

- ・ポンプダウン開始前、冷媒漏れのないことを確認する。
- ・配管折れ等により冷凍サイクル内に冷媒がない場合はポンプダウンをしない。
- ・ポンプダウン作業時には、閉鎖弁を閉じた後、配管をはずす前にコンプレッサーを停止する。



ゲージマニホールド  
(R32またはR410A専用)



青色

太管

細管

液側

ガス側

中間

&lt;p